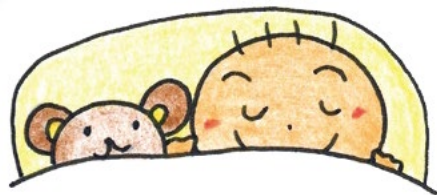


# 知っておきたい 今どき育児 “出産期”



## ♥ 夫の立ち会い出産が増えています

病院によっては、立ち会いがオンラインであったり、立ち会いの方法に制限があったりしますが、夫の立ち会い出産は増えています。陣痛～分娩まで、主役は出産する人とその夫。祖父母の役割は、大きな仕事に取り組む二人のサポーター。「まだ？」と聞きたい気持ちをおさえて、親からの連絡を待ちましょう。

## ♥ 産湯がないの?!

生まれたばかりの赤ちゃんの胎脂を、すぐに洗い流さないで自然に吸収させることで皮膚を保護するケア（ドライテクニック）が広まってきました。しかし、産院・病院の方針や、母子感染などの理由によって、沐浴を実施することもあります。

## ♥ 産院へのお見舞いは短めに

出産は大事業。産後のママは、疲れ果てています。「メイクしてないから人に会いたくない」という人もいます。お見舞いが無いのも寂しいけれど、多すぎたり、長すぎたりするのは考えもの。もうちょっと…と思われるうちに退室するのがコツです。もちろん、風邪気味のときは、どんなに行きたくてもガマンです。

入院中は、病院が食事だけでなくおやつにも気を配ってくれるので、食べ物・飲み物に不自由しないことがほとんどです。赤ちゃんの衣服も必要ないので、お見舞いでいろいろいただくと、退院時の荷物が増えて困ります。親からの明確なリクエストがない限り、病院には「お祝いの気持ち」だけを持っていきましょう。

## ♥ 「赤ちゃん、抱っこしていい？」と聞いてから

やっと出会えたかわいい孫！産院ですぐに抱っこしたいと思うのは当然です。でも必ず“なり立てママ”の意向を聞きましょう。ホルモンの影響で、ママの感情のアンテナが敏感になっています。誰にも赤ちゃんを触られたくないという気持ちになることもあるのです。

## ♥ 赤ちゃんの名づけは、親に任せましょう

おなかの中にいるときから、ああでもない、こうでもない、一生懸命考えた結果です。どんな名前であっても、親として最初の決定事項に口を挟むことはやめておいた方が賢明です。「この中でどれがいい？」とたずねられるチャンスに恵まれる祖父母は、それほど多くはありません。

## ♥ 何でも手伝ってしまうのは考えもの

赤ちゃんの世話は、できるだけ親に任せましょう。ぎこちなくて危なっかしくて、手や口を出したくなるのは当然ですが、練習しないと上手になりません。今は、親が『親』になっていく大切な時期です。

## ♥ じっと見つめないでください

生まれたばかりの赤ちゃんが、一生懸命おっぱいを飲んでいる表情は、本当にかわいいものです。でも、授乳中は「周囲の視線」がとても気になるのです。男性である祖父の視線は当然ですが、女性である祖母の視線もちょっと…。

授乳は、新米ママと赤ちゃんのコミュニケーションの時間でもあるので、「周りの視線をさえぎるスペース」を確保できるといいですね。

## ♥ イベントの主役は赤ちゃんとパパママです

かわいい赤ちゃんの顔を見ると、お宮参りは…お食い初めは…と気になる方もあるでしょう。親せき付き合いなどの事情もあるかもしれませんが、でも、どんなお祝いをどんな形にするかは、親が決めることです。

双方の実家の思惑が入り乱れて、せっかくのお祝いが辛いものにならないように、上の世代が気を遣いたいものです。

## ♥ 乳幼児のチャイルドシート使用は義務です

産院からの退院時でも、赤ちゃんは必ずチャイルドシートに乗せます。万が一の事故のとき、赤ちゃんを守ってくれるのは、きちんと装着されたチャイルドシートです。祖父母の車に乗せるときも、チャイルドシートは必須です。孫に何かあったら、一生悔やんでも悔やみきれません。

## INFORMATION

### 岐阜県では、すべての市町村が 【産後ケア事業】を実施しています。

【産後ケア事業】は、出産後1年以内の母子で産後ケアを必要とする人たちに、心身のケアや、育児サポートをするものです。

病院などへ数日宿泊したり、助産院へデイサービスに通ったり、助産師・保健師などの専門職に家庭訪問をしてもらったりができます。ケアにかかる費用は自己負担ですが、減免される場合もあります。

詳しくは、お住まいの自治体の窓口にお問い合わせください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/232870.html>

